912

授業科目名	**特別支援教育**				
担当教員名	**園田 和江**				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	教育機関で相談員、教員として勤務（全7回）。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

2014年の「障害者権利条約」批准により、「障害者差別解消法」「改正障害者雇用促進法」の施行など、国内における「障害」にかかわる法整備が進み、教育においても特別支援教育からインクルーシブ教育推進への動きが加速している。本科目では、「障害」を取り巻く最新の教育的動向を考えることを通して、「障害」のあるとされる子どもへの教育的支援の基礎、及び実践における支援のあり方を学ぶとともに、「障害」「支援」「共生」「教育」といった概念について深く考え、自らのかかわりを常に問い直す教育的姿勢の涵養を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	特別支援教育に関する知識	教員免許取得を目指す者として、「障害」についての基礎的な知識を習得するとともに、教育的支援に必要な知識及び支援方法についても理解することができる。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	障害のある子の就学・進学にかかわる様々な事項の学習を通して、教育的支援のあり方や「合理的配慮」を考える。	事例にもとづいたグループでの議論（事象分析や状況判断の検証）から、知識と実践を接合する困難さや対話的関係の重要性に気付くことができる。
汎用的な力		
1. DP5.計画・立案力		専門的知識を活用し、個々の児童の状況把握と支援への方策を立案できることができる。
2. DP9.役割理解・連携行動		教育的支援を実践する専門家としての役割と限界を知ることで、組織内の一員としての連携の重要性を理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
受講状況	40 %	： 各回授業への積極的な参加(発表や質問等は加点)や授業態度(私語、携帯電話の操作、居眠り等は減点)を評価する。
授業内ワークシート	40 %	： 教科書や配布する参考資料、映像資料の視聴を通してワークシートを記入する。授業の内容を踏まえて適切な読み取りと考察が出来ているかを独自のルーブリックを基に評価する。
期末レポート	20 %	： 講義内容の理解度と考える力を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
渡部昭男	・ 改訂新版　障がいのある子の就学・進学ガイドブック	・ 日本標準	・ 2022　年

参考文献等

・特別支援学校―幼稚部教育要領/小学部・中学部学習指導要領/高等部　文部科学省(2017)
・特別支援学校学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部)　文部科学省(2018)
・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(2015)『【新訂版】特別支援教育の基礎基本　独立行政法人国立特別支援教育総合研究所』ジアース教育新社　ISBN-10　4863712979
・上野一彦編集(2014)『【改訂版】特別支援教育基本用語100 -解説とここが知りたい・聞きたいQ&A』明治図書　ISBN-10　4181085104

その他　講義中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　教室

備考・注意事項：　メールでも質問等を受け付けます。sonoda-k@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**特別支援教育とは** ・必修科目「特別支援教育」（１単位）の目的と概要 ・シラバス及び講義の進め方など ・テキストの紹介および「プロローグ」の学習	テキストのプロローグに関して復習する。テキストの第１章について予習をする。この授業の予習復習は、授業内に配布されたシートに記入して毎回提出すること。	4時間
第２回	**知っておきたい就学の事務手続き** ・テキスト第１章「知っておきたい就学の事務手続き」の学習	テキストの第１章に関して復習する。テキストの第２章について予習をし、予習復習シートを提出する。	4時間
第３回	**就学先を訪ねてみよう** ・テキスト第２章「就学先を訪ねてみよう」の学習	テキストの第２章に関して復習する。テキストの第３章について予習をし、予習復習シートを提出する。	4時間
第４回	**複数の目で育もう** ・テキスト第３章「複数の目で育もう」の学習	テキストの第３章に関して復習する。テキストの第４章について予習をし、予習復習シートを提出する。	4時間
第５回	**特別支援教育を活用しよう** ・テキスト第４章「特別支援教育を活用しよう」の学習	テキストの第４章に関して復習する。テキストの第５章について予習をし、予習復習シートを提出する。	4時間
第６回	**ともに学び育ちあう教育** ・テキスト第５章「ともに学び育ちあう教育」の学習	テキストの第５章に関して復習する。テキストのエピローグについて予習をし、予習復習シートを提出する。	4時間
第７回	**思春期・青年期を見とおして** ・テキスト「エピローグ　思春期・青年期を見とおして」の学習	期末レポートを仕上げる。	4時間

912

授業科目名	**道徳教育論**				
担当教員名	龍神 美和				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校の教員として勤務（全7回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。その点に鑑み、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して実践的な指導力を身に付ける。
そのため、以下の各目標を掲げる。
①道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
②学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	道徳教育に関する専門的な知識の習得	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	「特別の教科　道徳」の指導に関する専門的な基礎知識と実践的な技能の獲得	「特別の教科　道徳」の授業理論、教材の読み方、指導方法、評価について理解し、実践的な授業力や評価する力の基礎を身につけることができる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		物事を根本から考え直すことで、課題に気づくことができる。
2. DP5.計画・立案力		目標を明確にし、それを達成するための計画を立案することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価をしない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験「筆記」	50 %	： 授業内容の理解度と応用力を評価する。
指導案作成	30 %	： それまでの授業内容の理解に基づいた効果的な指導案が作成できているかどうかを評価する。
受講態度	20 %	： 授業に積極的に参加し、進んで課題に取り組む態度を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
金光靖樹	・授業のための 新・「教職」道徳教育論	・教育情報出版	・2022　年

参考文献等

・授業の中で配布する。
・授業の中で適時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　具体的な質問方法については、初回授業時に周知します。
メールアドレスは初回の授業で伝える。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**道徳とは何か** 現在は価値観の多様化と言われる社会である。したがって、道徳の問題には答えがないように思われがちである。果たしてそうなのか？価値観が多様化する社会における道徳教育はどのように行われるべきかについて考えを深める。	価値観が多様化していると言われる社会で起こる道徳的な問題を理解するとともに、そのような社会における道徳教育の在り方についての理解を深める。	4時間
第2回	**学校の教育活動全体で行う道徳教育** 『学校学習指導要領』における道徳教育が「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」と「特別の教科　道徳（道徳科）」によって構成されていること、それぞれの特質、目標、内容について理解する。その上で、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」の具体的なあり方について理解を深める。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し、学習指導要領がめざす道徳教育についての理解を深める。	4時間
第3回	**道徳科の目標、内容、評価** 『学校学習指導要領』における「特別の教科　道徳（道徳科）」の目標、内容、評価について理解する。	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科　道徳（道徳科）」の目標、内容、評価について考えを深める。	4時間
第４回	**「特別の教科　道徳（道徳科）」の指導法（１）基本的な道徳科の授業展開と多様な方法を取り入れた指導法** 「特別の教科　道徳（道徳科）」の教科書に載っている教材を用いて、子どもたちに何を考えさせたいかと決めるための教材分析と多様な指導法について理解する。	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科　道徳（道徳科）」の教材の読み方について考えを深めるとともに、教材の読み方を他の教材にもあてはめて読む。	4時間
第5回	**「特別の教科　道徳（道徳科）」の指導法（２）6つの教材の読み方** 「特別の教科　道徳（道徳科）」の教科書に載っている教材を用いて、どんなことに気付かせ、考えさせたいのかを決めるための教材分析についての理解を深め、道徳科の学習指導案の構成について理解する。	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し，「特別の教科　道徳(道徳科）」の授業づくりについて考えを深めるとともに，授業構想を立て、発問を作成する。	4時間
第6回	**「特別の教科　道徳（道徳科）」の指導法（3）「問題追求的な学習」の学習指導過程、学習問題と中心的な発問を作るための視点、** 教材を用いてどのような授業をすればよいかを構想する。学習指導過程、学習問題と中心的な発問を作るための視点、道徳授業のねらいの作り方について理解を深める。	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し，「特別の教科　道徳(道徳科）」の授業づくりについて考えを深めるとともに、授業構想を立て、ねらいを作成するともに、展開過程を構想する。	4時間
第7回	**道徳科の学習指導案の作成** 第4回の教材を用いてどのような授業をすればよいかを構想し、指導案の作成方法を理解する。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し、学習指導案を作成する。	4時間

912

授業科目名	**栄養教育実習事前事後指導**				
担当教員名	弓岡 仁美				
学年・コース等	2回生	開講期間	通年	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	学校栄養士として公立小学校に勤務。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業は、1回生と2回生の2年間にわたって全14回行われる栄養教育実習のための授業です。
教育実習前の事前指導と実習後の事後指導で構成されています。
教育実習前には、事前指導として、栄養教諭免許状取得のための栄養教育実習の意義、目的を理解するとともに、教育実習に必要な事項の準備を行い実習への心構えを持つことを目指します。そして実習後には、実習内容の反省や問題点を整理、報告し、今後の課題の明確化を行う事後指導を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	教育実習の意義、手続きについて理解する。	教育者としての実習について理解し、児童とのかかわりについて理解できる。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	栄養教諭の教育実習に必要な知識と技術について理解する。	栄養教諭としての専門的知識・技能を修得し、研究授業に対する準備ができる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		教育実習に対して、自分に不足している知識及び技能について気づくことができる。
2. DP6.行動・実践		教育実習に対して積極的に考え、自ら行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業内課題	50 %	:	授業内課題の内容について、科目独自のルーブリックを用いて評価する。10点×5回の課題を提出する。
教育実習の成果発表	30 %	:	教育実習の成果発表の内容および教育実習ノートについて、独自のルーブリックを用いて評価する。
取り組み状況	20 %	:	課題等の取り組み状況について、独自のルーブリックを用いて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

食に関する指導の手引～第二次改訂版～（文部科学省）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
本授業は、栄養教育実習に行くための事前事後指導であるので、受講状況や態度によっては教育実習に参加できない可能性があります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜2限

場所： 栄養第2研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外の時間でも研究室に在室の場合はいつでも質問に応じます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**栄養教育実習の意義や目的及び概要について** 栄養教諭についての学科オリエンテーションを行う。 栄養教育実習の意義や目的について理解する。	栄養教諭免許取得を目指す心構えについてレポートを作成する。	1時間
第2回	**教育実習依頼の手続き及び、履修カルテの説明と記入** 栄養教育実習の依頼手続きについて説明する。 履修カルテの概要について学び、記入可能な箇所について各自が記入する。履修カルテを通して、各自の実習前の履修状況や準備状況を確認する。	栄養教育実習の依頼手続きを行う。	1時間
第3回	**2回生の栄養教育実習報告会への参加** ２回生の栄養教育実習の体験発表を聞き、終了後グループワークを行う。	次年度の教育実習に向けて、教育実習で取り組みたいことについてレポートを作成する。	1時間
第4回	**教育実習の展開と教育実習で理解する学校の教育諸活動** 学校の教育諸活動について理解する。 履修カルテの意義を理解し記入を行う。	履修カルテを記入後、教職での学びを振り返る。	1時間
第5回	**人権教育** 教育実習に向けて、人権教育について講義を受ける。 教育実習先でどのような人権的配慮を求められるのかを各自が確認する。	教育現場における人権についてレポートを作成する。	1時間
第6回	**望ましい授業のあり方** 実習校の実態を踏まえた課題の確認。 教育実習での研究授業の進め方について学ぶ。	各自実習校についてレポートを作成する。	1時間
第7回	**学習指導案の作成について** 学習指導計画について、グループワークを行う。	学習指導案を完成させる。	1時間
第8回	**細案、教具の作成について** 学習指導案に基づいた細案と教具を作成する。	細案と教具を完成させる。	1時間
第9回	**教育実習記録の意義と記入方法について** 教育実習記録の意義と実習ノートの記入方法について理解する。	教育実習ノートを記入する。	1時間
第10回	**直前指導** 実習中の連絡方法、実習後の提出物、実習の評価方法など、実習に向けての直前指導を行う。	教育実習に向けて準備すべきことについて考える。	1時間
第11回	**実習内容報告資料作成、栄養教育実習先へのお礼状の作成** 教育実習に行く心構えや実習校との打ち合わせ事項の最終確認を行う。	各自、実習先との打ち合わせを行う。	1時間
第12回	**栄養教育実習報告会・反省と問題点の整理** 教育実習後、実習内容について報告する。 他の学生の実習報告を聞き、自己の課題について考察する。	報告会の資料を作成する。	1時間
第13回	**教育実習の成果発表と自己評価（1回生参加）** 教育実習の成果を発表後、１回生を交えてグループワークにて振り返りを行う。	後輩へ向けての教育実習レポートを作成する。	1時間
第14回	**栄養教育実習の振り返りと今後の課題の明確化** 各自が栄養教育実習を振り返り、今後の課題の明確化を行う。	これまでの学びを振り返り、栄養教諭としての自己評価を行う。	1時間

912

授業科目名	**栄養教育実習**				
担当教員名	弓岡 仁美				
学年・コース等	2回生	開講期間	通年	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	学校栄養士として公立小学校や学校給食センターに勤務				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

栄養教諭は、児童に対して教育指導を行なう教員であり、その職務は「児童の栄養の指導及び管理をつかさどる」ことにある。本科目では、このことを認識したうえで、実際の教育現場において教育者としての能力を身につけるための実習を行なう。5日間という限られた時間の中で、自己の習得した理論や技術を適用し、果たして十分な効果が得られるか検証することを目指す。したがって、栄養教諭としてだけでなく、小学校及び中学校の教諭として、児童や生徒への対応や学校組織の一員としての役割などを実践から学ぶ科目である。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	学校における教諭の立場や役割についての理解	教育者として児童・生徒に関わり、一人一人の個性を理解できる。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	学校教育現場における教育実践力	学校における栄養教諭の役割を理解し、食に関する指導を実践することができる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		自ら学んできたことを振り返り、自己の課題を発見することができる。
2. DP6.行動・実践		研究授業に向けて積極的に行動し、授業実践ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実習の記録および報告書	50 %	： 教育実習の記録について、正確性、明確性、論理性、簡潔性、読みやすさ等の観点から4段階で評価する。
実習先の評価	50 %	： 実習先の指導教員によって、実習態度、マナー、教諭としての資質、実習記録等の観点から5段階で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「食に関する指導の手引－第二次改訂版－」/文部科学省

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、全体で45時間の学修が求められる。

体調管理に留意し、5日間の実習を行うこと。

事前に実習先校の先生と十分な打ち合わせを行い、しっかり準備を整えたうえで教育実習に望みましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜2限

場所：　栄養第2研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**学校での栄養教育実習　（５日間）** 栄養教諭二種免許取得のための5日間の教育実習を行う。 ・学校経営や校務分掌に関する指導教諭等からの説明 ・児童及び生徒への個別的な相談、指導の実習 ・児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習 ・食に関する指導の連携・調整の実習	事前準備をしっかりとしたうえで実習に臨む。毎日、実習記録を記載するとともに、次の日の準備等を計画的に行う。	10時間

912

授業科目名	**教職実践演習（栄養教諭）**				
担当教員名	弓岡 仁美・大槻 雅俊				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立小学校長として栄養教諭に対し、指導方法や児童理解、教材解釈などについて指導・助言を行う。（第2～9回） 学校栄養士として公立小学校や学校給食センターにて勤務。（第1回、第10～14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業は、栄養教育実習後、栄養教諭として最小限必要な資質・能力及び教育実践力が身についているかどうか評価し、学生自身が教壇に立つものとしての自己課題を明確にし、それを克服しようとする意欲を持つことを目指す。これまでの栄養教諭に必要な学びの集大成として本授業が位置づけされており、栄養教諭免許取得者として自覚することを目的とする。グループワークなどを通して、自分に不足している力を発見かつ克服し、栄養教諭資格取得者に相応しい知識と技術を修得したことを確認する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	栄養教諭として必要な知識技能	これまでの学びを振り返り、栄養教諭に必要な知識・技能を修得したことを確認することができる。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	教職の意義や教員の役割、地域や家庭との連携	食に関する授業やイベントを企画・立案し、実施することができる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		栄養教諭として必要な資質、能力、実践力について、自己の課題を明確化するとともに、それを克服することができる。
2. DP6.行動・実践		教員としての使命感や責任感をもち、社会性や対人関係能力を身につけ、子どもが主体的に学ぶことができる授業を実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「－」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題	40 %	： 教員が授業内で指示したテーマに沿ったレポートや製作物を独自のルーブリックによって評価します。
受講状況	10 %	： 授業への積極的参加（発表や質問等）や受講態度（マナー、取り組み姿勢など）を独自のルーブリックによって総合的に評価します。
期末レポート	50 %	： 担当教員2名のため、それぞれの評価数値を合算し、総合的に評価する。また定期試験期間中に提出した最終レポートを独自のルーブリックによって評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考資料等：必要に応じて資料やプリントを配布する。

参考図書：四訂栄養教諭論ー理論と実際ー（建帛社，2022年）
食に関する指導の手引き　第二次改訂版（文部科学省，平成31年3月）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜2限

場所： 栄養第2研究室

備考・注意事項： メールでも受け付けます。
yumioka@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション（自己の課題を確認し、授業概要を理解する。）（弓岡）** 演習の進め方と評価方法について理解する。 履修カルテに記入し、栄養教諭取得に向けて自らの課題について考える。	本授業における各自のテーマをまとめる。	4時間
第2回	**教職の意義と教員の責務（大概）** 教育実習の体験や自身の児童・生徒時代を振り返り、教職の意義や教員の責務を再認識する。	教職とは何かを考え、配布プリントにまとめる。	4時間
第3回	**児童・生徒の理解（大概）** 教育実習体験を基に、多様な子どもの理解の仕方と教員のかかわり方について省察する。	実習経験をもとに活発な子、物静かな子など多様な子どもについて考え、プリントにまとめる。	4時間
第4回	**児童・生徒を取り巻く教育諸問題（大概）** 児童・生徒を取り巻く教育問題のうち、いじめ・不登校・子どもの安全確保などの問題について理解し、対応について考える。	いじめの構造をまとめ、自身が取り組もうとする対応策を考えてプリントに書く。	4時間
第5回	**子ども一人一人の個性の尊重（大概）** 子どもの個性の尊重と教師の役割について知り、個を尊重する視点からディスカッションを行うことを通して、一人一人を大切にすることの重要性を理解する。	個を尊重することの意義をプリントにまとめる。	4時間
第6回	**学級経営と子どもの学び（大概）** 学級は子どもにとって学びの空間かつ集団であり、子どもの成長にとって重要な役割を果たす。そこで学級経営の意義と望ましい学級経営あり方を知り、子どもが楽しく学び、安全に生活できる学級づくりについて理解する。	学級経営の基本を学級のルール、仲間づくりの視点からプリントにまとめる。	4時間
第7回	**子どもが主体的に取り組む授業とは（大概）** 子どもが主体性を発揮する授業づくりについて、教育実習の体験から得た知見をもとに学習課題の視点から実践的な授業づくりを考える。	主体的に学ぶことと学習課題の関連についてプリントにまとめる。	4時間
第8回	**主体的な授業の構想（大概）** 児童・生徒が主体的に学ぶ授業づくりを目指し、教材の選定及び発問、板書を構想する。	授業略案を作成し、授業に必要な準備物を整える。	4時間
第9回	**子どもが主体的になるアクティブな授業の実際（大概）** 主体的かつ能動的な子どもの姿を求めて模擬授業を行い、その反省から子どもの主体性の源がどこにあるか考える。	授業の反省をとおして、子どもが主体性を発揮する要因をプリントにまとめる。	4時間
第10回	**地域と家庭と学校の連携・協働①（企画・立案）（弓岡）** 地域の学童保育と連携し、児童主体の料理教室を企画・立案する。	パソコンを使用して「料理教室」の運営マニュアルとレシピ等を作成する。	4時間
第11回	**地域と家庭と学校の連携・協働②（食育指導資料の作成）（弓岡）** 各グループごとに、ICTを活用して料理教室の実施に向けたレシピ作成、試作調整、食材料の発注書作成等を行う。	食材発注書を完成させる。	4時間
第12回	**地域と家庭と学校の連携・協働③（実施に向けた準備）（弓岡）** 児童主体の料理教室に使用する食育指導資料および家庭へ配布する食育資料をICTを用いて作成する。	指導資料を完成させる。	4時間
第13回	**地域と家庭と学校の連携・協働④（実施）（弓岡）**	料理教室の準備（食材下処理、会場準備など）	4時間

	地域の学童保育の児童を対象とした料理教室と食育指導を実施する。		
第14回	**まとめ（弓岡）** 地域の学童保育の児童への料理教室を振り返り、改善点等を検討する。 また自己の栄養教諭としての資質能力について確認し、履修カルテへの記入を行う。	最終レポートを作成する	4時間